市長と語る会に参加して

酒生公民館　運審委員長
柳生　薫

10 月 25 日に市公連と合同で「市長と語る会」が開催されました。運審連からの二つのテーマと市長の回答（概略）は以下の通りです。

①「福井市のまちづくりビジョンについて」

新幹線の開業に合わせて駅前の再開発が進み、恐竜のモニュメントなど福井ならではのコンテンツができた。南通り一帯も再開発の動きが出ている。ソフト事業では「桜マラソン」「ONE PARK FESTIVAL」やダンスのイベントなどの事業で外にアピールしていく。

②「地区の公民館のあり方と若者の参加を促す方策について」

小学校の統廃合があっても現場のコミュニティの活性化のためには今の公民館の形が望ましい。また、若者が興味を持つ事業が地域社会への参画に繋がる。

私の感想として、駅周辺が賑やかになったのは良かったですが、郊外の活性化についても話が聞きたかったです。また、若者が興味を持てる事業を企画していかなければと思いました。

委員長研修会に参加して

森田公民館　運審委員長
西　和成

令和６年 11 月 27 日、前日の能登半島における余震の冷めやらぬ中、天野和彦氏の研修会が始まりました。同氏は自身の経験を元に災害時の日本の「避難所の実態」を訴え続けておられます。３つのポイントについて述べられました。

① 先進国にもかかわらず他国に比べ貧相な避難所の現状
② 高齢者が多い避難所の生活・災害関連死につながる健康問題
③その様な事態を防ぐため、公民館・地域が連携し、自助・共助・公助の体制を作り上げる必要性

日本は、地震や台風など自然災害の発生率が高い国です。それだけに近年では災害被害を防ぐ「防災」だけでなく、災害は起きるという前提のもとで被害を最小限にとどめる「減災」がより重要視されております。こうした観点からも、災害時における地域住民の指定避難所となる「学校施設」並びに 拠点の一つとなる「公民館」は、「減災」を可能にする機能を一刻も早く確保していかなければならないと強く感じました。

編集後記

能登半島を中心とする地震から1年余り。復旧から復興へはまだ遠い道のりだと思います。まさに今年も、心中穏やかではない事案が各地各国で発生しています。

『絆』７５号発刊にあたり、このような時にこそ、各地域のコミュニティとしての公民館の役割がますます大切であり、さらに運審連としても公民館の活動に協力していきたいと思います。

末尾に、近年の高齢化社会に伴って若年層などへのすそ野の拡大に大いに期待したいところです。

2025年（令和7年）3月12日発行
運審連だより
きずな　第75号

絆

福井市公民館運営審議会連絡会
事務局　中央公民館内
福井市手寄1-4-1 アオッサ5階
TEL20-5459・FAX20-1538

防災研修会の様子

一乗地区について

一乗公民館　運審委員長
吉　川　武　男

一乗地区は、足羽川に流れ込む一乗谷川添いに伸びる山間地にあり、豊かな自然と歴史遺産に恵まれています。地区内にある朝倉氏遺跡は、50 年以上にわたる発掘調査・研究の成果により遺跡の価値の重要性が再評価されています。さらに、令和 4 年 10 月に開館した一乗谷朝倉氏遺跡博物館の効果もあって、全国から大勢の観光客が訪れています。

一方で、平成 16 年 7 月に発生した福井豪雨では、谷あいの地形が災いして一乗地区全域に大きな被害をもたらしました。あれから 20 年が経過しましたが、近年は日本各地で大きな災害が頻発して、多くの犠牲者が出ています。令和６年の 7 月に公民館で防災に関する勉強会を行い、福井豪雨時の状況再確認と災害時の避難行動計画である「マイ・タイムライン」について福井県の防災担当者から説明を受けました。これを受けて、福井豪雨クラスの大雨を想定して、地区住民に命を守るために自分自身の「マイ・タイムライン」の作成をしてもらうことにしました。防災への試みは始まったばかりですが、災害発生時の行動指針を話し合い、地区の防災力を高めていきたいと考えています。